

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

## 2 中期的目標

**1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長**

(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み

- ・落ち着いた学習に臨めるための環境整備と規律指導
- ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりの推進
- ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習の実施
- ・T-N-E-T、外国語外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上

(2) 生徒の学力の正確な把握

- ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開
- ※数学基本力調査 漢字検定（自作）日本語テスト の実施

**2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり（スクールソーシャルワークの組織的体制づくり）**

(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み

- ・新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方策の検討
- ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校と連絡を取り、情報共有する。(H29：すべての要配慮生徒の出身中学校を訪問)
- ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上
- ※卒業率を少しでも向上させる。(H29年度 3年コース 3名/5名、4年コース 25名/28名 計 84.8%)
- 平成 30 年度目標：85%、2019 年度目標：87%、2020 年度目標：89%

(2) 校内支援組織の整備と充実

- ・校内支援委員会の機能充実
- SSW 同席による校内支援委員会を年間 10 回実施する。
- ※「高校生活支援カード」「気になるメモ」等のファイルリングによる個人カルテ（個別支援計画）の作成
- ・SSW活動の推進
- ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の作成
- ※SC、SSW、CCとの連携を推進する。SC、SSW、CC同席によるケース会議を年間 2 回以上実施する。
- ※関西大学臨床心理専門職大学院生との連携による生徒支援、大阪大学教職課程「総合演習」受講者の実習受け入れを継続する。
- ※職業適性検査等の活用。全学年において適性検査を 1 回実施する。
- ※ハローワークや若者サポートステーション等との連携。サポートステーション主催の連絡会議に出席し、情報共有する。

**3 キャリア教育と人権教育の充実**

(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践

- ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
- ※学校斡旋就職内定率 (H29：8/8名 3月) 100%を維持する。
- ・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
- ※進路未決定率 (H29：14.3% 3月) を少しでも減少させる。
- ・人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施

**4 学校力の向上**

(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進

- ・教職員研修の充実 (年間 6 回以上実施)
- ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築
- ※研究授業のあり方を検討する。
- ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
- ※他校の先進事例等の研究を推進する。
- ・静かな教育環境の保持及び学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
- ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
- ・教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築
- ・地域との連携による防災活動の推進

(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備

- ・部活動の活性化 (H29:3月現在 入部率 65.6%) 平成 30 年度目標：67%、2019 年度目標：68%、2020 年度目標：69%
- ・保護者との連携強化
- ・将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って企画調整委員会で検討する。
- ・広報活動の活性化 (学校案内パンフレットと学校ホームページの有効活用)

**5 ICTを活用した校務の効率化と授業での有効活用**

(1) 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保

- ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
- ※ICT委員会を中心とした円滑な新校務処理システム運用
- ※ICT機器を使った授業についての研究 (視覚教材の活用を推進)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率 (在籍数 95 名 教員 17 人) 保護者 25.4% (H29 25.4%) 生徒 77.3%(H29 64.2%) 教員 100%(H29 88.2%)</p> <p>●生徒の評価が高い項目 (「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」合計)</p> <p>○生徒「教え方に工夫をしている先生が多い」 94.7 % (H29 90.2%) 保護者「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」 58% (H29 63%) 教職員「生徒の学習意欲に応じて、学習指導方法や内容について工夫している」 100%(H29 93.3%)</p> <p>○生徒「授業などでコンピュータやプロジェクターが活用される機会がよくある」 91.2%(H29 86.7%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」 94.1% (H29 100%)</p> <p>○生徒「先生は生徒の意見を聞いてくれる」 98.2 % (H29 87.9%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「教職員は生徒の意見をよく聞いている」 100%(H29 100%)</p> <p>○生徒「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 89.1%(H29 80.0%) 保護者「学校はいじめについて子どもが困っていること (疑いも含む) があれば真剣に対応してくれる (予想も含む)」 89%(H29 88 %) 教職員「いじめ (疑いを含む) が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」 100%(H29 93.3%)</p> <p>○生徒「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 91.1%(H29 76.7%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「この学校では生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている」 100%(H29 100%)</p> <p>○生徒「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」 86.0%(H29 75.0%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」 94.1%(H29 93.3%)</p> <p>○生徒「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」 94.5%(H29 90.0%) 保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」 84%(H29 71.0%) 教職員「奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している」 100%(H29 100%)</p> <p>○生徒「先生は学校の決まりや約束事を守っている」 93.1%(H29 93.2%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「職場においては教職員の服務規律への自覚が高い」 94.1 % (H29 85.7%)</p> <p>○生徒「学校の施設や設備、道具などは、授業や生活がしやすいように整備されている」 93.1%(H29 85.0%) 保護者「学校の施設・設備は学習環境面で満足できる」 89%(H29 94%) 教職員「この学校では、生徒の生活の場としてゆとりと潤いのある教育環境が整備されている」 94.1%(H29 78.6%)</p> <p>○生徒「生徒のプライバシーは守られている」 94.7%(H29 91.8%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」 88.2%(H29 85.7 %)</p> <p>生徒の肯定的意見が多い項目としては、①「授業での工夫・指導法の改善」に関わるもの、②「指導体制の充実・プライバシー保護」に関わるものに関するものが挙げられよう。①に関しては、昨年度より生徒の授業に関する満足度が高く、昨年度から継続してパッケージ研修支援Ⅲによる授業力向上に取り組んできた成果が確実に感じられる結果となった。②に関しては、昨年度より格段に肯定的意見の数値が上昇しており、本校が従前から実施してきたスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、進路コンサルタント(CC)との連携によるきめ細やかな指導体制が、今年度から始まった「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用によって、より盤石のものとなってきたといえるであろう。</p>	<p>第1回 学校運営協議会 (平成 30 年 7 月 20 日 (金)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育・進路指導について <ul style="list-style-type: none"> <li>先生たちの対応に保護者として感謝している。</li> </ul> </li> <li>学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者手帳等所持生徒の進路について、中小企業への就職も視野に入れて考えてもいいと思う。</li> <li>「学校力の向上」の防災活動について、生徒の非常食料の購入についてはすばらしいと思う。</li> <li>教員の非常食等非常時持ち出しグッズの整備も必要ではないかと思う。</li> </ul> </li> <li>教科書選定とカリキュラムの若干の変更について <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の中身全般について、本当にこれだけのことを全て修得する必要があるのか疑問に思う。指導内容の精選が必要だ。</li> </ul> </li> </ol> <p>第2回 学校運営協議会 (平成 30 年 11 月 22 日 (木)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業見学 (各委員の感想) <ul style="list-style-type: none"> <li>「経済」の授業内容が難しく、上滑りの感じがした。</li> <li>実際の生活に絡む意見が欲しい。</li> <li>教室一杯に生徒が散らばって座っていた。</li> <li>高齢者が前に座っていて意欲があるように感じた。</li> <li>勉強と生活は遠く離れた存在。何に興味がありどんな言葉なら通じるのか？</li> <li>物理の実験が面白い。</li> <li>生徒達の日中の活動は？ [←大半の生徒はアルバイトをしている]</li> <li>福祉と教育の合体は？ [←社会性を身に着けるために定時制高校に登校するケースがある]</li> </ul> </li> <li>前期授業アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年度は授業評価の数値が上昇している。</li> <li>「体育」はとにかく楽しませることに重点をおいている。</li> <li>障がい、年齢に対して加配はあるのか？ [←障がいに応じて非常勤講師時間をいただいている]</li> </ul> </li> <li>修学旅行報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年の北海道は天候に恵まれ暖かく、病人ケガ人が出ず、生徒は様々なメニューを楽しんだ。小樽、札幌の市内散策も自分たちで計画し行動したが集合時間をよく守った。生徒達はグループを越えて話ができている。</li> </ul> </li> <li>現在の取組【准校長より】 <ul style="list-style-type: none"> <li>定時制高校 来年度の募集人員 本校は 40 人</li> <li>授業取組の研修 パッケージ研修支援Ⅲ</li> <li>生徒秋季発表大会</li> <li>文化祭 1 日目 (模擬店) の開催場所の変化 (中庭⇒コモンスペース)</li> <li>地域と連携した防災の取組</li> <li>広報活動①進学フェア (7.29) ②夜間中学校向けの説明会 (11.21) ③大阪市立定時制高校進学説明会 (11.20) 中学校教員対象</li> <li>中小企業家同友会_ブロック懇談会 (11.19 中央、12.17 東)</li> <li>定時制高校と通信制高校と高等学校卒業程度認定試験について</li> </ul> </li> </ol> <p>第3回 学校運営協議会 (平成 31 年 2 月 8 日 (金)) 協議内容・承認事項等 (意見の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成 31 年度学校経営計画 (案) の基本的方針 (めざす学校像・中期的目標) について 《意見》 <ul style="list-style-type: none"> <li>委員：現代社会を生き抜くための基本的資質や能力や自立生活を営む力をより具体的に示すことはできないか。</li> <li>校長：2 の中間的目標の 3 に、「社会人基礎力の養成」を加える。</li> </ul> </li> <li>《承認》</li> <li>全日制_平成 31 年度学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>意見なし</li> </ul> </li> <li>学校教育自己診断 <ul style="list-style-type: none"> <li>(学校に行くのが楽しい等の数値が昨年よりも減少気味の原因として 1 年生の回答にマイナス回答が多いことを受けて)</li> <li>《意見》 <ul style="list-style-type: none"> <li>委員：母数が少ないので一人でもマイナス回答が増えれば大きくマ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

## ●生徒の評価が相対的に低いもの

○「部活動に積極的に取り組んでいる」 66.7%(H29 59.0%)

さまざまな生活背景や時間的な制約がある中で、それでも一定数の生徒が部活動に勤しみ、バドミントン部や卓球部、陸上部、科学部などが対外的な成果を上げている。中には複数のクラブを掛け持ちする生徒も存在する。今後いっそう、部活動や様々な学校行事を通して、自己有用感や学校生活での充実感を高めていく必要を感じている。

また、極端に低い数値とはいえないものの、  
「学校に行くのが楽しい」(H30 75.9% H29 86.9%)

「自分が学校に来ていることは意味があると思う」(H30 87.7% H29 93.4%)  
といった項目が、昨年度と比較して数値が低下しているのが気になる。さまざまな課題を抱え、悩み葛藤しながら学校生活を送っている生徒達に寄り添いながら、よりいっそうきめ細やかなサポートができるように、関係諸機関等とも連携を図っていきたい。

また、保護者の自己診断回収率が低く、評価も生徒と比較すると低くなっている。学校での取組みや様々な教育活動について情報発信を積極的に行い、保護者の皆様によく知っていただくための工夫が必要である。

イナスになる。

- ・委員：教育的配慮はもちろん、医療機関につなぐことも必要だが、福祉的なアプローチを強めないとしんどい。(スクールソーシャルワーカーの導入は評価できる。)

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の 最大限の伸長	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 落ち着いた学習環境で学べるようにするため、全教員で授業中の規律指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりに努める。</li> <li>・ 生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせるため、個別補講・講習等を実施する。</li> <li>・ 外国人外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。スピーキングテストを実施し、「話す力」のより一層の育成に努める。</li> <li>・ 視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。無線LANを活用し、タブレット型端末等を効果的に用いた主体的・対話的で深い学びの場を構築する。</li> <li>・ 教科の枠を越えた「コラボ授業」等、より柔軟な発想で、主体的・対話的で深い授業の在り方を研究し、実践する。(パッケージ研修支援を継続活用)</li> </ul> <p>イ 全学年において適性検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検・漢検の受検機会を促進し、本校独自の数学基本力調査や漢字検定(自作)により、生徒の能力の適確な把握に努める。</li> </ul>	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている」、「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率85%以上を維持する。 (H29:「興味・関心」85.7% 「授業中集中・・・」83.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度90%を維持する。(H29:94%)</li> <li>・ スピーキングテストの実施回数(各学年1回)</li> <li>・ 個別補講・講習等の実施回数(生徒の状況に応じて必要回数)</li> <li>・ 学校教育自己診断における①「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)、②「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教員)の各項目の肯定的意見90%以上を維持する。 (H29:①90.2%、②93.3%)</li> <li>・ 学校教育自己診断における「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の項目の肯定的意見70%以上をめざす。(H29:63%)</li> </ul> <p>イ 各学年で適性検査等を実施し、個人カルテを作成し生徒指導に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検・漢検を受検する生徒の存在</li> <li>・ 各種基礎学力検査等の結果データの蓄積及び分析による、生徒個別の学力傾向の把握</li> </ul>	<p>ア 授業アンケートにおける当該項目の肯定率は、「興味・関心」が86.1%、「授業集中」が90.0%であり、生徒の学習への取り組み状況は良好といえる。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人講師に関する授業アンケートにおける授業満足度は92%であり、良好といえる。(○)</li> <li>・ スピーキングテストの実施回数:3年生のみ1回実施(△)</li> <li>・ 補習等の状況:1年生ではテスト前に特定の教科・生徒を重点にした「居残り勉強会」を実施。2年生以上では、生徒相互による「教え合い」をテスト前に実施している。(○)</li> <li>・ 学校教育自己診断における当該項目の肯定率は、①94.7%、②100%で、昨年度を大きく上回る結果であった。(◎)</li> <li>・ 保護者の肯定的意見:58%(△)</li> </ul> <p>イ 学年と進路指導部が協議し、適性検査は毎年実施するのでなく、必要な時期に必要な学年で実施することとなった。(△)</p> <p>1年生:実施なし 2年生:職業興味検査 3年生:実施なし 4年生:昨年度実施済み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検・漢検の受検者:なし</li> <li>・ 基礎学力検査等の結果データ蓄積・分析</li> </ul> <p>国語科:学校独自の漢字検定を毎年実施し、傾向を把握 数学科:新入生に対し、毎年同一の基礎的な問題を解かせ、その年の指導の重点を決定 英語科:今年度は実施せず</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報の集約化と情報の共有</p> <p>(2) 生徒支援組織の充実</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p> <p>オ スクールソーシャルワーク(SSW)活動を組織的に活性化させる。</p> <p>カ いじめ防止に向けた取り組みの推進</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が生徒の情報を共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。</li> <li>長欠生徒に対して定期的に連絡をとり、在学意志の確認等、状況把握に努める。</li> </ul> <p>イ 「高校生活支援カード」や共有フォルダ等を活用し情報の集約化を図る。</p> <p>ウ 校内支援委員会の機能をさらに充実させ、SC、SSWとのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、SC、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談室の設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学教職課程「総合演習」受講者の受け入れによる生徒支援活動の継続。</li> </ul> <p>オ 生徒の個別支援計画を作成し卒業後の自立を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活において自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーション・スキル向上を目的としたワーク等を実施する。</li> </ul> <p>カ いじめ対策組織として人権教育推進委員会を機能的に活性化し、いじめアンケート結果の集約及び分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>府の「いじめ防止基本方針」改訂を受けて、校内の同方針について見直しを行う。</li> <li>必要に応じて、いじめ対策に関する教職員研修を行い、教職員のスキル向上に努める。</li> </ul>	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の出身中学校や福祉関連施設等を訪問し、情報共有する。</p> <p>生徒一人一人を丁寧に支援する本校のSSW活動を中学校へ広報して志願者の増加を図るために、学校案内パンフレット、学校ホームページを積極的に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業率を向上させる。 H29：3年次生 3名/5名 4年次生 25名/28名</li> <li>中退率を前年度から少しでも減少させる。 H29：8名/103名(3月)</li> <li>全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 H29：月平均71.7～79.6%(3月)</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断の評価の3つの項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H29:75.0%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H29:76.7%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H29:86.9%)</p> <p>ウ ケース会議を月例で開催し、プランニングを実現する。</p> <p>SSWと教員でアウトリーチを含めた行動を実践する。 (取り上げた生徒数H29:89件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のスキル向上のため、SSW、SC 同席による教職員研修を実施する。 (H29:2回実施)</li> </ul> <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上</p> <p>H29(3月):保健室 579件 関大院生 511件 教員アンケート(関大院生) 82.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月の大阪大学でのガイダンスで准校長がプレゼンを行い、受入れ学生10名を確保する。</li> </ul> <p>オ 特別支援の生徒の個別支援計画をできるだけ早期に始め、4年間を見通したライフプランが作成できるようにする。</p> <p>「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を有効に活用しながら、SSWを介して、福祉制度の活用と関係諸機関との連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションスキル向上のためのワーク実施回数 H29:1回(関西大学臨床心理専門大学院生による)</li> </ul> <p>カ 学校教育自己診断の評価の2つの項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」(生徒) (H29:80.0%)</p> <p>「いじめ(疑いも含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」(教職員) (H29:93.3%)</p>	<p>ア 特別な配慮を要する生徒に対し、出身中学校訪問、電話聞き取り、福祉機関訪問を行い、情報共有を行った。(◎)</p> <p>中学校訪問、学校説明会等の機会ごとに、本校のSSW活動をはじめとした取組み等について広報を行った。学校ホームページについても定期的な更新を行った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業率 90%(○) H30:3年次生 0名/0名 4年次生 18名/20名</li> <li>中退率(◎) H30:2名/77名(3月)</li> <li>全校生徒の出席率(○) H30:月平均70.6～84.7%(3月)</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断(○)</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H30:86.0%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H30:91.1%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H30:75.9%)</p> <p>相談しやすい雰囲気については肯定的意見が大幅に増加したものの、学校に行くことに辛さを感じている生徒が1年生を中心に増加している。今まで以上に生徒一人一人に寄り添った丁寧な個別支援体制の構築に努めなければならない。</p> <p>ウ SSW同席によるケース会議(校内支援委員会)は年間10回開催した。(◎)</p> <p>取り上げた生徒数 H30:のべ209件</p> <p>10月にSSW・SC同席によるケース会議を実施した。2月にSSW、SC、CC同席による合同学習会を予定。</p> <p>エ 生徒相談件数 H30(3月)(○)</p> <p>保健室 延べ705名(3月) 関大院生活動実績 延べ111件 教員アンケート(関大院生) H30:73.3%(△)</p> <p>4月、8月に院生とのミーティングを行い、コミュニケーションを密にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学「総合演習」受講学生の受け入れ:10名募集のところ20名以上の申し込みがあり、スポーツ大会や文化祭等で協力していただいた。</li> </ul> <p>オ 個別支援の具体化(◎)</p> <p>関係諸機関との連携 158件 コミュニケーションスキル向上のためのワーク実施回数 H30:2回(6月、1月)</p> <p>カ 学校教育自己診断の当該項目の肯定率(◎)</p> <p>「いじめ対応」(生徒) H30:89.1% 「体制の整備」(教職員) H30:100%</p>
--	---	---	--	--

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 キャリア教育と人権教育の充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 外部機関、キャリアコンサルタント (CC) との連携強化</p> <p>イ 障がいのある生徒等の進路指導の確立</p> <p>ウ 進路ホームルームの計画的運用</p> <p>エ 企業・保護者との連携・情報共有</p> <p>オ 人権教育推進委員会の活性化 人権ホームルームの計画・実施 (安全で安心な学校づくり推進事業の活用)</p>	<p>ア ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</li> </ul> <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内支援スキルを向上させる。</p> <p>ウ 進路 HR の年間計画を各学年ごとに作成し、計画的に運用する。</p> <p>エ 企業・保護者との連携、情報共有を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業家同友会との連携による職場体験、インターンシップを推進する。</li> <li>中小企業家同友会と教職員による情報交換会を実施する。</li> <li>保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。</li> <li>「保護者とともに進路を考える会」を実施し、生徒、保護者、担任の3者面談を行う。</li> <li>障がい者施設や障がい者雇用事業所との連携・情報交換を実施する。</li> </ul> <p>オ 人権教育推進委員会を活性化させ、本校において系統立てた人権ホームルームができるよう、検討・準備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導のノウハウ収集のため、平成30年度「安全で安心な学校づくり推進事業」にエントリーし、有効活用する。</li> <li>教職員のスキル向上のため、人権教育推進委員会企画のもと、教職員向け人権研修を実施する。</li> <li>生徒向けの人権講習会(外部講師の招へいも含む)を実施する。</li> </ul>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率 100%にする。 (H29:8/8 3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関との連携を図り、進路未定者数の減少に努める。 (進路未決定率 H29: 14.3% 3月)</li> <li>キャリア・コンサルタント (CC) の活用 ハローワーク、若者サポートステーションとの連携を継続・発展させる。</li> <li>就労意識の向上を目的にアルバイト経験を勧め、職業体験の積極的な活用を推進する。 (H29: アルバイト・職業体験推進 13件)</li> </ul> <p>イ 職業適性検査から職業体験、そして就労へ結びつける指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのワークショップやキャリア教育関係の講話を実施する。(H29: ワorkshopを1回、キャリア講話を各学年1回実施)</li> </ul> <p>ウ 各学年の進路 HR を年間3回以上実施する。 (H29: 1年6回、2年4回、3年3回、4年20回)</p> <p>エ 積極的に呼び掛け、「保護者とともに進路を考える会」出席者数の増加をめざす。会の実施連絡を周知徹底し、保護者・生徒のニーズに合致したコンテンツを用意して、より一層有意義な内容にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「進路だより」年間5回発行(郵送、ホームページにアップして周知) H28: 24名 H29: 8名</li> </ul> <p>オ 教職員向け人権研修を実施する。 (H29: 全日制と共催で1回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け人権講習会を実施する。 (H29: 0回)</li> </ul>	<p>ア 学校斡旋就職希望者内定率 (○) 100% 9名/9名 (3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路未決定率 (△) 16.7%</li> <li>CCの活用 (◎) 年間100時間 生徒の就労支援や行政・福祉機関との連携等において、本校におけるキャリアコンサルタントの存在意義は、非常に大きい。</li> <li>アルバイト・職業体験推進 (○) H30: 13件</li> </ul> <p>イ 職業適性検査から職業体験、就労へ結びつける指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生: 実施なし</li> <li>2年生: 職業興味検査</li> <li>3年生: 実施なし</li> <li>4年生: 職業適性検査(昨年度実施済み)</li> </ul> <p>学年と進路指導部が協議し、適性検査は毎年全学年で実施するのではなく、必要な時期に必要な学年で実施することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関西大学臨床心理専門職大学院生によるコミュニケーションワークを2回実施。</li> <li>本校同窓生による進路講話を実施した。</li> <li>CCによるキャリア講話を各学年で1回以上実施した。(○)</li> </ul> <p>ウ 学年別進路 HR の回数 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 5回</li> <li>2年 4回</li> <li>3年 4回</li> <li>4年 20回</li> </ul> <p>エ 「保護者とともに進路を考える会」出席者数 (△) H30: 5名 進路だよりの配布・WEBアップなど参加の呼びかけを行ったが、結果に結びつかなかった。出席者を増やすためのさらなる方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「進路だより」の発行 (○) 5回 (4月、7月、10月、12月、2月)</li> </ul> <p>オ 教職員向け人権研修 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月 全日制と合同研修</li> <li>6月 教育振興会総会でのコミュニティ・ソーシャルワーカー講演</li> <li>11月 アニメ「めぐみ」視聴 生徒向けには、准校長が全校集会で互いの人権を尊重し合う旨の講話を行った。</li> <li>生徒向けの人権講演会の来年度実施に向けて準備を進める。</li> </ul>
---	--	---	---	--

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>ア 教職員研修の充実</p> <p>イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築</p> <p>ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p> <p>オ 部活動の活性化</p> <p>カ 保護者との連携強化</p> <p>キ 企画調整委員会の活性化 (校内の諸課題を継続的に検討)</p> <p>ク 広報活動の活性化(学校案内パンフレットと学校ホームページの有効活用)</p> <p>ケ 地域との連携による防災活動の推進</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。 ・教科の枠を超えた他教科との「コラボ授業」などの新しい試みを模索・実践する。 ・パッケージ研修支援に継続して申し込み、全校をあげて授業改善に取り組む。</p> <p>ウ 関西大学臨床心理学専門職大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の維持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に充実感を持てる環境を整備する。</p> <p>カ 保護者会と教員の懇談会を実施する。・保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。</p> <p>キ 企画調整委員会で 従来の指導の在り方や行事への取組み方を見直し、生徒のニーズと現状に合った内容を継続的に検討する。また、志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、分掌等組織体制のスリム化、教職員間の業務負担平準化、および学校力の向上を図る。</p> <p>ク 本校の SSW 活動の取り組みや ICT を効果的に活用した授業実践、落ち着いた学習環境の実現等について、積極的に外部にアピールし、志願者の増加につなげる。そのため、学校案内パンフレットと学校ホームページを最大限に活用し、新入生等の卒業中学校への訪問を通じて中学校との連携を密にし、本校での取組みについて周知を図る。</p> <p>ケ 学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、昨年度に地域自治会や区役所と連携しながら立ち上げた防災教育実践委員会を継続開催し、平成 30 年 8 月に、定時制と地域自治会の共催による災害時避難所実習を実施する。</p>	<p>ア メンタルケア、ICT を活用した先進的な授業実践、新学習指導要領、人権課題等、多様なテーマによる教職員研修を実施する。 (H29 研修会数 7 回) 授業改善等 (パッケージ研修支援Ⅱ) 2 回 人権関係 (全日制の共催) 1 回 校内支援委員会関連 (SWW、CC 同席) 2 回 生徒指導の方向性 1 回 AED に関する研修 1 回</p> <p>イ 興味ある授業づくりを推進するため研究授業・研修会を年間 2 回実施する (パッケージ研修支援制度を活用)。</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート (教員向け) を実施し肯定率を少しでも向上させることを目標とする。(H29 : 82.3%)</p> <p>エ 生徒指導件数をめやすに学校マナーの徹底を図る。 (H29 懲戒件数 0 件)</p> <p>オ 部活動の奨励 (H29 入部率 : 65.6%) (3 月)</p> <p>カ 保護者とともに進路を考える会・教員との懇談会の実施 「進路だより」年間 5 回発行 (郵送、ホームページにアップして周知)</p> <p>キ 指導の在り方、行事への取組み方、各種委員会の統廃合について企画調整委員会で継続・検討する (職員会議のない週も月に 1 回は課題検討会議をおこなう)。</p> <p>ク 学校案内パンフレット及び学校ホームページの有効活用 (広報・ホームページ委員会主導による、ホームページの定期的更新) ・志願者数の増加 H30:20 名 (1 次:19・2 次:1) H29 : 18 名 (1 次・2 次)</p> <p>ケ 防災教育実践委員会の定期的な開催 平成 30 年 8 月の災害時避難所実習開催</p>	<p>ア パッケージ研修支援Ⅱにかかわる全体研修 4 回、人権関係 3 回、校内支援委員会関連 (SSW・SC 等同席) 2 回、防災関係 (避難所開設訓練・防災士による講話) 2 回、保健関係 (デート DV、心肺蘇生法、薬物乱用防止) 3 回、服務 (個人情報適正管理) 1 回を行った。(◎)</p> <p>(H30 研修回数 15 回)</p> <p>イ パッケージ研修支援Ⅲにかかわる全体研修 4 回 (うち 1 回は布施高校定時制との合同研修)、研究授業及び研究協議を 3 回実施した。(◎)</p> <p>ウ 教員の外部人材の肯定率 H30 (△) 関大院生 : 73.3 % ※昨年度と比べ若干数値が低い、「教員とは異なる立場で生徒と接していただき、助かっている」との意見が多く、来年度も継続したい。</p> <p>エ 生徒指導件数 (△) H30: 3 月末の懲戒件数 1 件</p> <p>オ 部活動加入率 (△) (3 月) 63.5% (運動部 21 人 文化部 26 人) 全国大会出場 陸上部 2 名 バドミントン部 1 名 科学部が日本物理学会 Jr セッション等で奨励賞を受賞</p> <p>カ 保護者進路説明会を 5 月 22 日に実施。(○) 「進路だより」の発行 (○) 5 回 (4 月、7 月、10 月、12 月、2 月) (再掲)</p> <p>キ 教職員減少に対応した改組等について、検討を行った。(○)</p> <p>ク 学校パンフレットを合同説明会や中高連絡協議会等で配布 (○) 学校ホームページ更新 : 3 月までに 10 回 (○) ※来年度は広報年間計画を立てて、全教職員周知のもと、広報活動を行う。 H31 志願者数 14 名 (1 次 14・2 次 0 )</p> <p>ケ・7 月 17 日 北大江地区との連携による災害時避難所開設実習 ・学校防災アドバイザー同席による防災教育実践委員会を 3 回実施 ・11 月防災退避訓練の内容を刷新して実施し、防災アドバイザーから講評をいただいた。 ・12 月に防災アドバイザーによる教職員向け講演および生徒向け防災教育を実施 (◎)</p>
-----------------	---	---	--	---



## 府立大手前高等学校 定時制の課程

5 ICTを活用した校務の効率化	<p>(1)校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ ICT 機器を使った授業についての研究・教材開発(パッケージ研修支援制度の有効活用)</p>	<p>ア ICT 委員会の機能強化と情報セキュリティの整備充実を図るとともに、円滑に校務処理システムを運用する。</p> <p>イ タブレット型 PC、プロジェクター、書画カメラ等の ICT 機器の活用による教材開発と授業実践。 教材等の共有化により、教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか定期的に点検を行う。</p> <p>イパッケージ研修支援制度を活用し、ICT 機器を使った公開授業を今年度中に1回以上実施する。</p> <p>・他校の先進的な公開授業等を見学し、定時制にあった教材を作成する。 (タブレット型 PC, プレゼンテーションソフト、書画カメラ、プロジェクター等の活用)</p>	<p>ア 成績処理、指導要録との連携、調査書の発行において校務処理システムを使用している。転編入生徒に対応した校務処理は手計算せざるをえない。また、このシステムを用いた成績処理によって発行できる通知表の改善を検討中である。(○)</p> <p>イ ICT 機器を使った公開授業は、パッケージ研修支援Ⅲの中で2回行った。(○)</p> <p>・他校の先進事例見学は、今年度実施できなかった。(△)</p> <p>ICT 教材作成は、英語の授業を中心に、地歴公民、保健、家庭科などで個々の教員によって進めている。(○)</p>
---------------------	---	---	---	---